

令和2年度第2回 茂原市総合教育会議

1 期 日 令和3年3月24日(水)
開 会 午後1時15分
閉 会 午後2時50分

2 場 所 茂原市役所9階会議室

3 出席者

茂原市長	田中 豊彦
教育長	内田 達也
教育長職務代理者	高貫 裕一郎
委員	安藤 明子
委員	高仲 輝夫
委員	竹田 幸則

4 出席職員

教育部長	岩瀬 裕之
教育部次長(教育総務課長)	佐久間 尉介
学校教育課長	金澤 勤
生涯学習課長	渋谷 千春
体育課長	片岡 弘一
中央公民館長	岡田 公一
美術館・郷土資料館長	三階 英幸
東部台文化会館長	大和久 正
学校教育課主幹	金坂 暁
教育総務課長補佐	川崎 弘道
教育総務課総務係長	小安 宏尚

5 傍聴人 0人

6 議 題

- (1) 茂原市教育施策の大綱の策定について
- (2) 学校再編の進捗状況について
- (3) 本納中学校区の小中一貫教育について

7 報 告

- (1) 今後の会議日程について

8 会 議 録

教育総務課長補佐 : 定刻となりましたので、ただいまから令和2年度第2回茂原市総合教育会議を開会いたします。

構成員の皆様には、ご多用の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

今年度2回目の総合教育会議となります。本日の案件は、次第にあるとおり議題3件でございます。

いずれも重要な議題となりますので、よろしく願いいたします。

- それでは、開会にあたりまして、田中市長よりご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。
- 市長 : 本日、令和2年度第2回の茂原市総合教育会議を開催するにあたり一言ご挨拶を申し上げます。
- 教育委員の皆様には、日頃から本市の教育の充実に向けてご尽力賜り、厚く御礼申し上げます。
- さて、本日は「茂原市教育施策の大綱の策定について」、「学校再編の進捗状況について」、「本納中学校区の小中一貫教育について」を議題として取り上げたところでございます。
- 今年度、懸案であった「茂原市教育施策の大綱の策定」につきましては、協議を重ね、本日、議案として提案し、決定したいと考えております。
- 「学校再編の進捗状況」につきましては、学校再編第二次実施計画の策定に向けた現在の進捗状況について確認し、共通理解を図ってまいりたいと考えております。
- 「本納中学校区の小中一貫教育」につきましては、今後の予定を確認するとともに、必要とされる取組等について、皆様から様々なご意見を賜りたいと考えております。
- 教育の推進にあたっては、十分な協議を行い、連携を取りながら進めてまいりたいと考えておりますので、今後ともご協力をお願い申し上げ、簡単ではございますが、あいさつに代えさせていただきます。
- 教育総務課長補佐 : ありがとうございます。
- それでは、これより本日の議事に入らせていただきます。
- 本会議の議事の進行につきましては、教育部長が行うこととなっておりますので、これからは岩瀬教育部長、よろしくお願ひいたします。
- 教育部長 : それでは、よろしくお願ひいたします。
- 早速議題に入りたいと思います。本日の議題は3件ございます。
- まず、議題の(1)「茂原市教育施策の大綱の策定について」説明をお願いします。
- 教育部次長 : 議題(1)茂原市教育施策の大綱の策定について説明
- 教育部長 : ありがとうございます。
- ただいま「茂原市教育施策の大綱の策定について」の説明がございましたけれども、ご意見・ご質問等がありましたらお願ひいたします。
- 高貫委員 : 9月の総合教育会議を経て、この表紙に、「ふるさと茂原を愛し・・・」というこの文言が、茂原市の教育が目指そうとしているところを表しておりとてもわかりやすいタイトルをつけていただけたと感謝しております。
- その中で1ページの3の基本構想の文言の中に人づくりを中心的課題と捉えと書いてありまして、これを踏まえて基本方針の4項目が作られていると、非常にテーマというか、課題をとらえ、こうしていくという道筋ができていて大変よろしいと思います。
- 特に基本方針の1に書いていただいたような社会を生きる力の育成、今のこの難しい時代を生きていく力を子ども達につけさせていくというものを非常に多く書いていただいておりますので今の実情に合っていると感じております。
- 私が個人的にとっても思うのは、基本方針4の茂原を愛する心の育成という中の特に郷土愛の育成では、茂原市を愛する、茂原を郷土として誇りに思えるような心を育てていくということをこれからの子供たちに植え付けていくことはとても大事だと思いますし、それがひいては町の発展にも繋がるのではないかなと思います。

私も個人的に人づくりやまちづくりっていう言葉を、昔からちょっと聞いたことがございまして、やはり人を育てていって、茂原に対する郷土愛とか誇れる町にしていくっていうのが、これからの教育でとっても大事ではないかなと思いますので、この部分を、ぜひとも、具現化して推し進めるような形で、また皆さんとこれから力を合わせて頑張っていければと思っています。感想と意見を述べさせていただきました。

教育部長 :

ありがとうございます。

ほかにございますか。

高仲委員 :

結論から申しますとこの大綱案でお願いしたいということでありまして。これまで平成の教育があって、昭和の教育があって非常に振り子のように揺れてきた経緯があります。

昭和の教育は、詰め込みなどから校内暴力等が現れてきたというようなことがあります。それから、平成に入ってゆとり教育で学力低下が指摘され一番の課題になってきて、いじめ問題がクローズアップされてきた。平成の教育はいわば教育不信の時代だったのかなというような気がします。

令和の教育は、教育の不信を払拭するというようなことがあり、この大綱で進めてきますよという決意があり、キーワードとしては言葉とICTがメインになってくるのかなという気がします。

また、今生徒の集団の扱いは、多様性を認めましょう、同じことをやっていきましょうというようなことを求められていると思います。

ラグビーのオールジャパンも皆、多国籍の中で一つの目標に向かって、それで進んでいったと、例えるならそういう社会が今後求められてくるのではないかなと思います。

本大綱の中には、ICTやいじめやネット環境などが盛り込まれておりますので、これをもって令和の教育の前半を進んでいけたらなと思っています。

前回の1次の案を修正し、新しいものを盛り込んでいるこの案で進んでいくことを期待しております。

教育の原点っていうのは、人づくりであって、今コロナなど色々な問題が出ていますので、回り道かもしれないけども人づくりはしっかりやっておかないといけない必要があると思います。

最後に私の考えですけども、今の児童生徒は、いずれは世界と戦って行って、茂原という地域を支えていけるような人材育成をしていきたいという思いでいっぱいであります。

本案で、進んでいければなということで期待もたくさんあります。

教育部長 :

安藤委員お願いします。

安藤委員 :

私が平成27年に教育委員になったときに初めて作成した教育大綱で、今回、修正とか見直しをして新しい教育大綱を作るということで、5年経ってその間に、茂原市では色々な変化、大雨も災害もあったし新型コロナの感染対策など子供を取り巻く環境も変わってきているのでより良く子ども達が安心して安全に生活できるよう配慮した大綱にしていくのが一番いいと思います。

今回は、ICT教育も入っていますしグローバル化なども入っています。

これはもちろん大切だと思いますし、これからも授業でもどんどん取り入れていくことだと思うのですが、反面、基本方針の2にインターネットとかSNS等でトラブルや事件に巻き込まれるような案件が多数あるのでそういうところもフォローしていかないといけないかなと思っています。

この大綱で、また新しく5年間進んでいくといいと思っています。

- 教育部長 : 竹田委員お願いします。
 竹田委員 : 私も今回教育大綱の策定に初めて参加させていただきました。
 そういった中で、様々な皆様のご意見を聞いて、非常に細かい部分等目標が取り決められているというのを改めて知りました。
 基本方針があつて、各項目を達成するために、現場を含めていろんな施策が打たれていくのかなと思っております。
 5年間という期間を考えますと、小学校1年生で入学した子供が最上級生を迎え、小学校5年生ぐらいの子供さんも中学を卒業する年代になってくるということで、非常に人間形成とか重要な成長期の時期に当たるものが、メインになってくるかと思っておりますので、ぜひこの基本方針を含めた各項目を確実に実施していただいて、子供さんの成長にぜひ繋げていただければと思います。
 先程もお話がありました茂原愛、地元を愛するという気持ちと、国際的な海外との関係とか、茂原というものがより素晴らしいものだという教育をしていただければありがたいと思っておりますし、情報の関係やICTとか色々ありますけども、その反面、読書という活字でやっていただく施策をきちんと盛り込んでいただいておりますので、これを確実に実施していただいて、より良い教育施策につなげていただければありがたいなと思っております。
- 教育部長 : 教育長何かございますか。
 教育長 : この大綱は、1番茂原市の教育行政の大元になるものだと思います。
 今日の後の議題にもある学校再編と小中一貫教育そのすべてにこの大綱が大元になっておりますので皆さんから出たご意見の中にもあるように新しく入ったICTであるとか読書活動であるとか、茂原を愛する心の育成ということでそういう人間が育っていったただければなと思っております。
- 市長 : 皆様方に言っていたように大変素晴らしい大綱ができたと思っております。
 きちっとこれにのっとして粛々とやっていっていただきたい。
 今、通常の学習とは離れた部分で、国際化の中ではコロナなどいろんなことが起きてしまっており、国際情勢というものを早いうちに教育の方で子どもたちに理解していただけるような環境づくりを進めてもらいたいと思っております。そのような内容を取り込んだ大綱が出来たということは非常にいいことだと思っております。
 是非これでよろしくお願ひしたいと思っております。
- 教育部長 : それでは、皆様のご意見等を聞かせていただきましたが、この計画（案）で進めさせていただけたらと思っております。
 つきましては、原案のとおり決定してよろしいでしょうか。
- 各委員 : はい。
- 教育部長 : ありがとうございます。本案を、今後5年間の大綱として教育施策を推進していきたいと思っております。
 それでは次に、議題の(2)「学校再編の進捗状況について」説明をお願いします。
- 学校再編推進室長 : 議題(2)「学校再編の進捗状況について」説明
- 教育部長 : ありがとうございました。
 ただいま「学校再編の進捗状況について」の説明がございましたけれども、ご意見・ご質問等がありましたらお願いいたします。
- 高貫委員 : (3)の本納小・新治小・豊岡小からのこれからを踏まえて言わせていただくのですが、今般のコロナウイルス等により住民意見交換会等が中止さ

れスケジュールが大きく遅れてきており、残念ではありますが実施に向けて進んでいかなければいけないと私は思っております。

その中で特に本納地区の現在の進捗状況の中でも書かれておりますように小中一貫教育を目指して統合する方針かなというところがございます。やはり、この部分を一つの特色として、小中一貫教育というのを、今茂原市としても本納地区で目指そうというものがございます。

ですから、新しい学校になり新しい教育が行われるというのを、是非、住民意見交換会の中で中心的に説明をしていただいて皆さんに紹介していただければ少しこの考え方が変わるのかなと思います。

先程の教育大綱の中でも話がありましたが、茂原愛・郷土愛の育成という新治地区のように反対等があると聞いておりますが、反対される方たちも、自分の小学校や地域に対する思いが強いがためではあるのかなと思います。であれば熱心な方々に協力をいただいて、新しい教育に是非とも参加していただいて地域の方と一緒に新しい本納地区の教育を作りましょうというようなものを作っていく所を中心に、ぜひとも話を進めていただいたらどうかというのが私の意見です。そう簡単にはいかない部分、多々あるかと思うのですけれども単純に人数が減ったから統合しますというよりは、新しいものを目指そうというような観点から取り組んでいただけたらどうかという意見です。

南中・早野中についても、同じように地域の方々の協力を得ながら進めていただければと思っております。

高仲委員 : 今の高貫委員の意見と付け加えて、何か魅力をもっと訴えるものがないのかなという感じがします。

大きな学校づくりには、不安や期待感の両方があると思います。また、地域に学校がなくなる不安というのは、認めざるをえないのかなという感じがします。

新しく小中一貫校ができるのは、何か期待できるような新しいこと始めるのかな、新しい力が子供たちにつくのかなという期待も保護者には随分あると思うんですね。

だからそんなワクワク期待するところをもう少しもうちょっとアピールしていく必要があるかという感じがします。

いずれにしても、少子高齢化についてはもう5年10年後の歯止めはちょっと厳しいのかなという感じがします。

消滅する学校が出てくるとなると、1人や2人になっちゃう可能性もあるしそこまで様子見ようとは待てないのかなという感じがします。

人口減少は静かなる有事と言われております。ジワジワ進んでいて気がつくところこんなに減っちゃったということがあるので、そんなに悠長に様子見はちょっとできないと、もう少し思い切って進めたいという思いがあります。

コロナで意見交換会等がストップしておりますが、担当する方は大変でございましてもっとアピールしていかないという感じがします。

安藤委員 : 私は、昨日二宮小学校の閉校式に出席させていただきました。統合準備等大変だったと思います。学校再編では、学校がなくなったり閉校したりするかもしれませんが、昨日も記念誌を頂き歴史とか地域の思い出とかそこに通っていた児童生徒の思い出は全く消えないし変わらないものだと思うので、不安も分かりますけど統合して良かったなと今から通う子供達が思ってくれば何よりだなと思います。新しい学校で元気にたくさんの友達と過ごせるのが一番だなと思っております。

もちろん、今度、本納小・新治小いづれ豊岡小についても、保護者の方たちは、おそらく人数がいっぱいで子ども達が楽しく通えるように願っていると思うんですけど、地域の方々にも理解していただいて、今まで統合してきた学校を見ていただいたりするアピールも必要かなと思います。

統合して良かったというところを見ていただくのが一番わかりやすいかなと思います。

竹田委員 : 小学校がなくなるというのは、その地域にとっては、コミュニティの一部である子供たちの声が聞こえなくなるということで、非常に寂しい部分があると思います。

町や地域の活性化という部分では、非常にそういう気持ちもわかるころではあるのですが、先程から話が出ていますように、一貫教育をすることに対する魅力の発信ということが本当に重要になってくると思います。確かに反対の意見の方は、親とかその地域を育った方々だと思うんですけども、決して子供さん自身が、反対している現状ではないと思いますので、やはり子供さんたちが新しい学校に行って、卒業した時にこの学校はいい学校だったという思い出を持てる魅力ある教育を作っていくっていただければいいと思います。

どうしても順を追って、やっていかなければいけない部分、またハードルの高い部分もいくつかあるかと思いますが、是非この方向で進むように、私どもも祈っておりそういう方向に進めばいいなと考えております。

教育長 : 私たちが常に念頭に置いていかなければならないと思うのは、この学校再編は、教育委員会としては子供たちの学習環境を整えてあげるとというのが一番の狙いということをお忘れにはいけないと思います。

例えば、新治小学校は、今38名、来年度は30名であり、この人数は子供たちにとって良い環境ではないと思います。この間も、スクールバスや施設にすごいお金をかけて財政健全化に逆行しているのではというご意見も頂いたところもありましたけれども、私達は、子供たちの教育環境を整えてあげるといふ、余りにも小規模の学校は良い環境ではなく統廃合するというところで進めているのでそこは忘れちゃいけないと思います。

その一環として、例えば、資料4の1ページにもありますが、富士見中と西陵中の統合にあたっては、教職員と生徒の要望を入れて校舎の大規模改造を行い校舎内は非常に綺麗になっていて、子供達もすごく喜んでいてということをお伺いしています。

小中一貫教育につきましても、子供達にとってより良い教育をするために進めようとしておりますので、予算等を要望しながらいい教育が進められるように努力してもらいたいと思っています。

また、先日の審議会で、コロナの影響で意見交換会ができなかったために令和4年4月で意見がまとまりかけていたのですが、それはちょっと難しいということで、1年遅れの令和5年4月になってもいた仕方ないという話になりました。

その時に、コロナの今の状況では、5月に意見交換会を計画しておりますが緊急事態宣言が発令されてできなくなってしまい、またどんどん遅れちゃってもいいのかという意見もありました。

だから、是非ともオンライン会議や会場をいくつかに分けて少ない人数でやるとか、意見交換会の方策を十分考えてもらわないといけないかなと思っています。

市長 : 学校再編の進捗状況ということで、今回議題として取り上げていただいておりますけれども、やはり少子化の流れは止まらないと思います。

議会等でも言うておりますが、俗にいう自然減自然増、それから、社会増社会減という言い方をしておりますが、一月に100人亡くなった方がいると生まれてくる方達は、約40から50人の状況がここ数年ずっと続いておりますので毎年500から600人は自然減という形では減っています。

社会増社会減を見ていくと、一昨年くらいまでは減っておりましたが、ここにきて若干上がってきており、移住して来ている方がいるがそれで果たして人口増に繋がっているのかという話があります。

日本全体では、圧倒的に結婚する方たちが、少なくなってきており結婚する方の中でも、子供さんが少ない状況が見られる。これは国がこれは真剣に考えて対策を10年前からうっていかねばいけないうことだったので、全然それがうてておりません。

従って今の状況ではまだまだこれが続くと思っ間違いないと思っておりますので、そういう流れを相対的に見た中で学校再編というのは当然おきてくるものです。今までは、右肩上がり人口増加につながってきて、経済が上がってきたというような状況の中では学校がいっぱいできてきたのですが、今やそういう学校もどんどん生徒の数が少なくなってくるので環境をどうするかっていうことをとらえた時にやっぱり子どもたちの環境を整備してあげるのが行政側の責務であるし、教育としても切磋琢磨して大人数の中で揉まれれば発展的な発想も出てくるでしょうし、いろんな考え方も生まれてくるのかなと、再編をすることによってできるだけ子どもたちにとってプラスになるような方向でもっていければいいかなと思っております。

また、再編も大事ですが、国際化とICTも大事だと考えています。

今のところ、粛々とやっていかなければならないと考えておりますので皆様方にはよろしくお願ひしたいと思っております。

教育部長 :

ありがとうございました。

それでは、よろしいでしょうか。

皆様から様々なご意見をいただきましたけれども、今後も子どもの教育環境を第一に考えることを最優先に考え第二次実施計画を策定し着実に統合を進めてまいります。

それでは次に、議題の(3)「本納中学校区の小中一貫教育について」説明をお願いします。

学校教育課長 :

議題の(3)「本納中学校区の小中一貫教育について」説明

高仲委員 :

3ページが一番下、ICTの活用は、どちらかという目玉なのかなっていうような気がして期待しているのですがいかがでしょうか。

学校教育課長 :

GIGAスクール構想によって来年度から一人一台がタブレット端末を持ちまして、授業で活用されることによってICT教育が推進されていくわけですが、実際にいいものを持っていてもなかなか学校のほうでそれが活用できないと、授業の改善にもつながっていかないので、市で1名ICT教育支援員という者をつけていただけましたので、その人材を活用しながら、教育委員会の職員がその職員と一緒に学校訪問をして各学校でICT教育が進むように考えておるところです。

ICT活用をした授業なども一貫教育の中で、どこの部分ができるかってところも4校で考えてもらって進めていきたいと考えております。

高仲委員 :

5ページに関して質問ですけれども生活習慣、学習規律、家庭学習は、小中で本当に徹底していくべきというような気がします。学力テストでナンバーワンを取った秋田では、学力向上のために行っているのは、生活習慣を徹底させたことが一番の成果というような書かれ方をしています。だか

らこの学習規律や生活習慣を徹底していく必要があるような気がします。これは例ですけども、期待したいところです。

9年間という時間の中で徹底できればいいなと思っております。

ここはいかがでしょう。

学校教育課長 : おっしゃるようにそこに載っています生活習慣、学習規律、家庭学習については、全ての内容が子供達に指導されている内容でもあります。

先程、特に4月から7月までの段階に言葉遣いに力を入れていこうと話をさせていただきましたが、2番目の整理整頓・掃除、時間意識は指導しないということではなくて、全部の項目を子ども達に十分指導していきます。

そういった中でも、特に本納地区では挨拶や言葉づかいに力を入れて指導していくという考えであります。

学習規律についても、学習準備のことなど、当然低学年にも指導していくわけですが、その中でも話し方にとりあえずスポットをあてて指導していくことになっております。

高仲委員 : 意見としては、これを本納中学校区で徹底して欲しいという思いもあるのですが、反面、あまりにもこちら側で仕組んでプランを作ると校長の経営のオリジナル性が失われてしまうのではという思いがあります。

小中一貫については、先程市長から何を売りにするかというような言葉がありましたので、これ売りにするっていうようなことを打ち出せたらというような思いがあります。ぜひ意見として受けとめていただければと思います。

高貫委員 : 今もう3月の終わりで、4月の頭から明確にでき上がってスタートしていただけるのでしょうか。それともやっていく中で、徐々に特色が作られていくものなのかお伺いしたい。

学校教育課長 : 小中一貫教育を進めるにあたっては、とにかく校長を先頭に学校の中で進めていくというものがきちんと定まっていなくて実際に進んでいかないことになってしまいます。校長にも、資料を参考に学校経営方針に盛り込んでもらいたいということを言ってありますのである程度資料を見ながら進んでいくのかなと感じております。

ただ、今までやったことがないような部分もありますので、それを年度途中、或いは学校の校長会議等で進捗状況がどうなのか常に教育委員会の方が連携をして進めていかなければなかなかうまくいかないかと思っております。

先程、こちらで校長の裁量の部分を決めてしまわないほうがという意見もいただきましたが確かにそうでございます。

3ページの本納中学校区の取り組みについては、実際に学校の方でどのように進めていこうかを決めてもらうことになっておりますので、先生方の方からこういったことやっていこうじゃないかという提案がどんどん出てくるような意識をもたせていければいいかなと思っております。

高貫委員 : 例えばその校長先生や現場の先生が変わっていくと中身は変わっていくものなのではないでしょうか。

学校教育課長 : 今までは、小学校の6年間と中学校の3年間は、どちらかというと離れていて小中連携教育ということをやっているわけですが、一歩進んだ形で小中一貫教育という取り組みをこれから進めていくわけです。

9年間いつも同じことを言っているわけではなくて、9年間のとらえ方として学習指導で言うと小学校1年生のごく簡単な算数の時期から中3の受験の難しい授業の内容があるものを9年の一部として捉えて、小学校4年生で習った授業が中学校2年生でまた出てきて、繋がっていくという9年間1つのまとまりとした学習指導であるというのが一貫教育の特徴であります。

- 高貫委員 : これを売りにしていこうというフレーズが保護者や一般の方には、挨拶をしようでは伝わりづらい部分もあります。例えばわかりやすいフレーズで本納の小中一貫では、例えば英語教育はこういうふうにやっていますとかICT教育に重点を置いてやっていますとか分かりやすい言葉があるといのかなっていう気がしました。
- 教育長 : この小中一貫教育ですけど、本納地区をモデルケースとして統廃合も絡んでいるということもあって、みんなで本気で取り組んで子どもや保護者が小中一貫教育やって良かったなと思ってもらえるように頑張ってもらいたいなと思っています。
- また、このケースが他の地域のモデルということで一生懸命取り組む中で失敗等もある中で、初めて参考になってくると思うので、この辺がやりにくかったとか、ここはすごく小中一貫教育として取り組みやすかったとか、そういうことが出てくると思うので、この学校に来て良かったと思えるものをやってもらいたいと思っています
- それから、先程から出ていた意見の中で共通していると思ったのは、余りにも教育委員会が設定してしまうと校長の思いも出にくくなってしまいう意見と、ある程度9年間決まった方向性があるのか、それとも変わってしまうのかという意見があったと思います。学校では、教育目標とか経営方針は校長が作っていく。例えば、市でも市長さんが変わると色々方針とか考えとかが変わっていきますが、学校も校長が変わると経営方針が変わったり学校教育も変わったりすることがあります。それを、子ども像とか目標をがちり9年間決めてしまうと、後から来た校長は決まったものをずっとやっていくことになってしまい、高貫委員もおっしゃっていましたが校長のオリジナリティが出にくいんじゃないかと。
- だから、やり方として常に心がけてもらいたいと思うのは小学校と中学校、同じ中学校区内の小学校が情報交換を常に行い、話し合いをして、学校同士がとにかく協力性がないとうまくやっていけないので、やり方や組織的なものを大切にしていけないといけないと委員さん方の話を聞いて思いました。
- 市長 : 小中一貫校の9年間を4、3、2という形でやるやり方は非常に素晴らしく期待をしております。
- 本納地区での小中一貫はモデルケースとしてやるわけで、いいということになれば全体に広がっていきます。子供たちが伸び伸びと礼儀正しくそれでいて他とは違うというような生徒さんたちが次から次へと育っていけば、茂原の本納もいいなというような形になってくると思いますので是非やっていただきたい。そのためには色々外部からも指導を仰がないといけないところも出てくると思います。
- ただ、父兄の中には小中一貫を進学しやすいようなイメージ取られる方もいらっしゃると思うのでそうではないということもご父兄の方にはよく説明していただきたいと思います。
- 小中一貫に関しては、考え方はとってもいいと思いますのでチャレンジでやってみていただければと思っています。
- 教育長 : 小中一貫ではないのですが、ICT支援員とGIGAスクール構想をメインにした指導主事を1名ずつ増やしていただいておりますので、茂原市全体として、ICT教育の充実が図ればなと考えています。
- 教育部長 : それでは、よろしいでしょうか。
- 令和3年度から、市内において先進的に本納中学校区で始めるわけですの

で、4校と連絡調整を十分に図り、児童生徒にとって教育効果の大きい小中
一貫教育となるよう進めてまいります。

それでは次に、報告の(1)「今後の会議日程について」説明をお願いします。

教育部次長 : 報告(1)今後の会議日程について説明

教育部長 : ありがとうございました。

次回の日程についてご質問等がございますか。

それでは、その他に皆様から何かご意見・ご質問等がありましたらお願い
いたします。

なければ、本日の議事については終了いたします。

教育総務課長 : 皆様、長時間にわたりお疲れ様でした。

補佐 : 以上をもちまして、令和2年度第2回総合教育会議を終了いたします。